和教時報

2022年２月15日（火）発行　第1982号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みばん

女性部 新春のつどい

職場の「もやもや」を一緒に考える機会を！

粉河中学校分会　東田　敦子

一月八日（土）プラザホープで、女性部恒例の「新春のつどい」を開催しました。今年も新型コロナ感染症の影響を考え、オンライン併用とし、学習会には立命館大学産業社会学部准教授の富永京子さんをお迎えして、「社会的『わがまま』のススメ」と題してご講演いただきました。

立命館大学　富永京子准教授

日本では「政治的な意見を言うこと」への抵抗が根強いので、署名やボランティアといった静かにする活動が比較的活発で、デモ参加などはハードルが高く、社会運動は苦手なこと。そして、政治を通じて自分たちの利潤を追求することは、偏っているのではないかと考えてしまいがちだということ。しかし、社会自体が偏っている＝平等ではないから、そう考えるのは当たり前。社会運動は「わがまま」「偏っている」と思うかもしれないけど、社会をよりよくするきっかけになるので、小さなことと思わず、職場の「もやもや」を議論して、か細くてもいいから声を上げていくことが大切。日常と社会運動をつなげて捉えることが重要だと話されました。

少し前に「ビジネスマナーとしての高さ付きヒール強制の撤廃」が話題になりましたが、この社会運動は、元はといえばある女性の愚痴から始まったと聞きました。私たち教職員も集まって、職場の「もやもや」＝不満や悩みを出し合い、どうしたらいいかみんなで考えることが働きやすい職場づくりの第一歩なのだと改めて感じました。

一緒に考えれば解決策が見えてくるかもしれないし、解決の方法がすぐに出てこなくても、人に聞いてもらったり、そう思っていたのは自分だけではなかったんだと思ったりすることで、気持ちが少し楽になります。

コロナ禍でも、たとえ短時間でも少人数でも集まり方を工夫して交流し、つながりを大切にする活動を続けていきたいと改めて思えた、充実した学習会となりました。

講演後は、各支部の活動の交流、お土産争奪戦と楽しい時間を過ごし、三学期に向けてエネルギー充電の時間となりました。

お土産争奪ジャンケン大会
（女性部新春のつどいより）

ピンのスポット ㊴⑨

卒業の時期を迎えると思い出す情景があります。いずれも教職についてからのエピソードで、一つは森山直太郎の『さくら』とS君。S君は自閉症で、興味をもったことはとことんやり抜く〝研究肌〟でした。色んな活動に誘っても時間の切り替えがなかなかできず、当時ブームだった「6角形を繋いで、球体を作れるか」という難問に挑んでいました。

ある日の音楽授業で、先生が『さくら』を演奏した時、彼はそれまでの行動をピタッとやめ、最後に一筋の涙を流したのです。曲の旋律が彼の感情を動かした瞬間が忘れられません。

もう一曲は卒業式の定番『旅立ちの日に』。これもピアノ前奏だけでこみ上げてくるものがあります。

特別な式典が、コロナ禍を理由に形式的なものにならないといいな、と思います。（I）

憲法9条は世界の宝！
「憲法改悪を許さない全国署名」を広げよう！

昨秋の総選挙結果、改憲派（自民・公明・維新）が改憲発議に必要な三分の二以上の議席を確保し、憲法をめぐる情勢は今までにない危機的な状況になっています。

改憲に意欲を示す岸田首相

岸田首相は「憲法改正推進本部」を「憲法改正実現本部」に改称し、各地方でも改憲のための集会開催を提起しています。維新の松井代表も七月の参議院選挙時に国民投票も実施すべきと主張するなど、憲法9条はかつてない危機に直面しています。

自民党の狙いは、①9条に自衛隊を明記 ②緊急事態条項創設

現行の9条に「自衛隊を保持する」と追加し、自衛隊による集団的自衛権行使を口実とした海外での武力行使を合憲化しようとしています。

緊急事態条項の創設では、災害時だけでなく、軍事的な緊急事態になった時にも内閣の権限で国民の基本的人権を制限することが目的です。

新たな署名を広げよう！

「9条改憲NO！全国市民アクション」から改憲阻止のための新たな全国署名が提起され、和教組も加盟する「憲法9条を守る和歌山県民の会」では県下で二〇万筆を目標に署名に取り組みます。和教組では各支部からみなさんにお届けします（支部によっては新年度に）。忙しい中ですが、子どもたちの平和な未来を守るため署名を広げてください！

内閣総理大臣 様
衆議院議長 様
参議院議長 様

憲法改悪を許さない全国署名

行き詰まって相次いで政権を投げ出した安倍・菅政権をひきついだ岸田文雄政権は、２０２１年の総選挙で改憲発議に必要な３分の２の議席を手に入れました。岸田首相は中国や朝鮮を念頭に違憲の「敵基地攻撃能力の保有」をとなえ、歴代政権がかろうじて維持してきた防衛費の対GDP比１％以内の原則をも放棄して２％以上を主張するなど、米国をはじめ欧米諸国との軍事同盟を強化し、「戦争する国」づくりを進め、アジアの緊張を高めています。しかし、この道の障害になるのが憲法９条など、日本国憲法の理念です。

改憲派は次の参議院選挙をにらみながら、９条に自衛隊を書き込むこと、緊急事態条項を創設することなどを内容とする自民党改憲４項目案をベースにして、国会の憲法審査会での改憲案づくりを急ごうとしています。

私たちは国会が改憲の発議をすることを許さず、すべての戦争に反対し、憲法を生かし、平和と民主主義、人権、環境、暮らし・医療・公衆衛生向上などを実現する政治を求めます。

【請願事項】
1、自民党が提唱する憲法９条に自衛隊を書き込むことなどの改憲４項目に反対します。
2、憲法を生かし、平和と民主主義、人権、環境、暮らし・医療・公衆衛生などの向上を実現する政治を求めます。

名　前	住　所

※いただいた署名は国会請願と首相への要請以外には用いません。

呼びかけ団体　9条改憲NO！全国市民アクション
ホームページ：http://kaikenno.com　メールアドレス：info@kaikenno.com
ツイッター twitter.com/no9kaikenno
インスタグラム instagram.com/9jyokaikenno/
フェイスブック facebook.com/kaikenno/
kaikenno.com

連絡先
・戦争をさせない1000人委員会（☎03-3526-2920）
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-22-11 連合会館内
・憲法９条壊すな！実行委員会（☎03-3221-4668）
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-3-3 太陽ビル402市民ネット内
・戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター（☎03-5842-5611）
〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4F
・九条の会（☎03-3221-5075）
〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-7-303

取り扱い団体：和歌山県教職員組合

和歌山県地方労働組合評議会 旗開き
いつもと違う旗開き でも 今年も奮闘します

県地評は一月七日、二〇二二年新春旗開きを行いました。和教組からも武田委員長をはじめ、担当役員が出席しました。当初は、会食も含めた形で準備がされていましたが、新型コロナウィルス感染拡大の「第六波」を迎える中、急遽式典のみの開催となりました。

会場には、和歌山県、和歌山市の労政担当者、県労働者福祉協議会や野党各党からも出席されました。

旗開きでは、琴浦議長のあいさつの後、各団体からの祝辞がありました。最後に加盟団体であるわかやま市民生協労組の阿波委員長、県公務員共闘の杉谷議長、県医労連の長谷委員長から今春闘に向けての決意表明があり、短時間ではありましたが二〇二二年春闘のスタートにふさわしい旗開きとなりました。

各地域でも春闘共闘の結成にあたり、学習会などが開催されています。

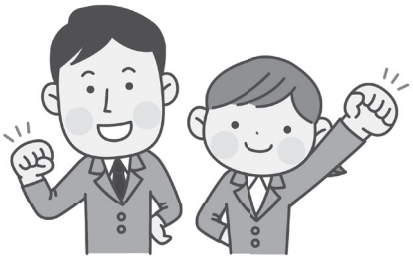
2022年度 政府予算案

教育の充実に後ろ向きな岸田内閣

岸田内閣は、一二月二四日、二〇二二年度政府予算案を閣議決定しました。一般会計の総額は、一〇七兆五九六四億円と二一年度当初予算比で〇・九％増え、一〇年連続で過去最大を更新しました。中でも防衛費は、五四二億円増加し、一〇年連続で前年度を上回り、八年連続で過去最高を更新しました。一方教育や社会保障にかかわる予算は、圧縮された内容となっています。

私たちの願いである教職員増については、小学校での段階的な三五人学級や教科担任制の推進等での改善はあるものの、少子化による「自然減」や学校統廃合などの「合理化減」などで約三三〇〇人の大幅減となり、不十分なものと言わざるをえません。

一方で「GIGAスクール構想」等「教育のICT化」関連予算が目立ちます。補正予算で前倒しされた分も含めて「GIGAスクール運営支援センター整備事業」「デジタル教科書の普及促進」などの予算が大幅増額されています。



二〇一八年の日本の公財政教育支出の対GDP比は二・八％でOECD加盟三八か国中、下から二番目です。OECD諸国平均四・一％まで教育予算を増やせば、少人数学級や国際公約した高等教育の無償教育漸進的導入など教育無償化を実現することができます。

私たちは、「教育全国署名」など教育条件の充実、教育予算増額を求める運動を引き続き進めていきましょう。

全国障害児学級・学校学習交流集会（1月9～10日）

保護者の方々とともに学ぶ!!

障害児学校部　書記長　山崎　浩廉

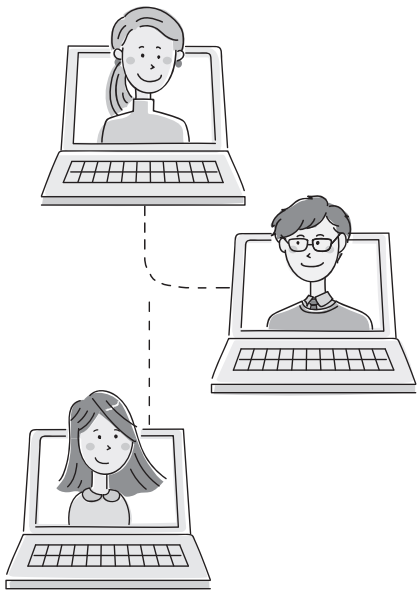
全国障害児学級・学校学習交流集会がオンラインで開催されました。

和歌山からは障害児学校の教職員・福祉関係・保護者など約三〇名の方々が参加しました。

九日の全体会では障害児学級・学校の卒業生の方々が学校に通っていた頃を思い出しながらの座談会があり、当事者からの意見を受けて学校教育を考える機会になりました。

一〇日は発達を学ぶ基礎講座に参加しましたが、改めて人間の発達を学び、そのうえで発達保障の権利としての障害児教育を追及する必要性を感じました。

和歌山での障害児教育の充実のため、ともに運動を支えてくれている保護者の方から「私たちは教育の専門家でないからいい機会になりました。一緒に参加して横で解説してくれたら、もっとよく分かったのに」との声がありました。オンラインだと個人参加という形態になってしまいますが、この年に一回の障害児教育の学習会は保護者の方々にとっても学びとなる学習会です。来年は京都で開催される予定です。多くの仲間と一緒に京都へ行って、学ぶことができたらと思っています。



まちがいさがし当選者（10名）

おめでとうございます。
当選者の皆様には「学校生協ギフトカード」を贈呈いたします。

支部	分会	氏名
和市	盲学校分会	三谷　昌史　様
和市	紀北支援分会	片山　伴子　様
海草	野上小分会	松尾　昌子　様
日高	和田小分会	坂田　元子　様
日高	南部小分会	花光　岬希　様
西牟婁	南白浜小分会	小山　三佳　様
西牟婁	朝来小分会	日下　茂樹　様
東牟婁	宇久井中分会	西　聖子　様
東牟婁	太地小分会	岸　みどり　様

※あと１名は有田支部の臨教組合員の方です。
たくさんのご応募ありがとうございました。

シリーズ 中教審答申

学校のゆくえ

POINT 7 教育の楽しさ 本当の学びを語り合おう

ICT機器活用が目的化され、教職員間でも機器活用ができるかどうかで分断が生じないかが危惧されます。

コロナ禍以前から学校教育のスタンダードやマニュアル化が教職員や子どもたちを縛り、授業や指導法が画一化し、特定の価値観の押し付けに添えない場合は居場所が奪われるという問題も膨れあがっています。教職員が上意下達により、仕事の効率化や合理化を進めようとすればするほど、子ども一人ひとりの表情を見逃し、気持ちに応える時間が奪われてしまう結果、ますます教職員の専門性が培われず、教職という仕事がAIに奪われる可能性も否定できません。

学びの場の基礎集団としての「学級づくり」を大切にし、子ども観に基づいた授業計画を立てることや、創意工夫された実践の営みは、教師が子どもたちに対して責任をもつべきものです。

しかし、中教審は「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の実現に向けて」のまとめ案の中で、教員免許更新制廃止と引き換えに、さらに教職員を縛る研修制度を作ろうとしています。

研修は自主・自立が保たれるものであり、教育課程の編成権は学校にあるものです。これらの流れに対峙し、教育の面白さややりがいを学び、交流していきましょう。子どもたちに本当の「学び」を与えるために私たち教職員もスキルに頼らず、教育研究活動や民主サークルで教育実践を通して、学ぶことの本質を語り、深め合いましょう。

2022年度
奨学生募集のお知らせ
無利息で奨学金を貸付します。

応募資格	国・公・私立大学・大学院・短期大学・高等専門学校（第４学年以上の在学生に限る）及び専修学校（学校教育法「第７章の２」に基づく）に在学しているか、入学手続きを完了したもの。（但し海外の大学は対象外です）
募集期間	2022年２月１日～４月20日
募集人員	20～25名
貸付金額	修学１年につき25万円で、新入学の場合、最高４年で100万円
利　息	無利息（但し、返済期限を過ぎた場合は延滞利息を徴収します）
申込方法	ジブラルタ生命教弘担当社員、または、下記の事務局へ申し出てください。「奨学生申請書」をお送りします。
選考・決定	当支部の教育振興事業選考委員会にて審査、選考をおこない、和歌山支部長の推薦をへて本部理事長が決定します。
奨学金送金予定	2022年６月初旬
奨学金の返済	奨学金は原則として卒業年の12月を第１回とし、100万円借用者の場合は７回以内、それ以外は５回以内の年賦返還（毎年12月）。

日本教育公務員弘済会和歌山支部
〒640-8269 和歌山市小松原通3-20
TEL. 073-421-7881
FAX. 073-488-7202

全教共済
全国の仲間の助けあい
総合共済
結婚、出産などお祝い給付が魅力です！
退職時には掛金総額が給付されます！
月々600円 毎月加入できます

お問合せは　和歌山県教職員共済会・WKKまで
〒640-8269　和歌山県小松原通3-20　教育会館１F
TEL：073-436-7860（9:30～17:00）
FAX：073-436-8688（24時間受付）